

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

ドル/円相場のトレード戦略

その後、トランプ大統領のロシアゲート疑惑や、予想を下振れする米経済指標が続いたことでドルの上値が重い状況となり、6月に米国が利上げをするとともにバランスシート縮小に言及したにもかかわらず109円～111円水準で保ち合い相場となっています。

米景気減速懸念とトランプ政権の経済政策実行遅延の可能性がドルの上値を抑える一方、FRBのバランスシート縮小への強い意欲がドルを下支えしており、米国の景気の先行きをより慎重に見極める必要がある相場が続くことが予想されます。

■ 短期展望

先週は、110円台で方向感のない取引で始まったものの、米国の消費者物価指数が予想を下回る伸びとなったことを受けてドル売りの流れが強まり、一時108円81銭まで軟化しましたが、米FOMCでFRBの景気認識が市場の予想以上に強気であったことから111円台を回復するという、レンジの中を大きく上下動する展開となりました。

今週は、米国の住宅関連の指標を注目しつつも、明確な方向性が出ることは期待しにくい動きとなりそうです。

先週に比べ、若干下値を切り上げた109円半ば～111円半ばで素早い回転売買がメインの戦略となるでしょう。